同志社大学「次世代研究者」プロファイル

2018年7月現在

基本情報					
フリガナ 氏名	ナガノ 永野　　アカネ 茜	性別	女	生年	1990年
氏名（英字）	NAGANO　　Akane	メールアドレス	anagano(a)mail.doshisha.ac.jp		
学歴	2009年4月　同志社大学心理学部心理学科　入学 2013年3月　同志社大学心理学部心理学科　卒業 2013年4月　同志社大学大学院心理学研究科心理学専攻博士前期課程　入学 2015年3月　同志社大学大学院心理学研究科心理学専攻博士前期課程　修了 2015年4月　同志社大学大学院心理学研究科心理学専攻博士後期課程　入学 2018年3月　同志社大学大学院心理学研究科心理学専攻博士後期課程　修了				
職歴	2012年4月—2012年9月　同志社大学心理学部　スチューデント・アシスタント 2013年4月—2016年3月　同志社大学心理学部　ティーチング・アシスタント 2016年4月—2016年9月　洛和会京都厚生学校看護学科　非常勤講師（担当科目：心理学） 2016年4月—2017年3月　同志社大学大学院心理学研究科　リサーチ・アシスタント （共同研究名：人工甘味料の摂取による体重増加における条件性満腹感消去の役割と肥満防止策の開発） 2017年4月—2018年3月　日本学術振興会　特別研究員（DC2） 2017年4月—2018年3月　京都ノートルダム女子大学心理学部　非常勤講師 （担当科目：推測統計学I・II） 2017年4月—2018年3月　同志社大学心理学部　ティーチング・アシスタント 2018年4月—現在　同志社大学研究開発推進機構および心理学部　特別任用助教				
指導教員	青山 謙二郎　教授	取得学位	博士（心理学）	専修外国語・読解可能な外国語	英語
研究活動					
研究分野	比較認知科学				
科研費分類による研究分野	人間情報学，応用情報学（認知科学関連）				
研究テーマ	心的表象操作の進化—物理的因果理解の比較認知科学的検討—				
研究概要	ヒトは，複数の物体がある場面で，それらの物体を実際に手で動かす前に，その物体を心的に表象し操作することで，より適応的に目標に到達することができる。ヒトの高度な心的表象操作能力の発生過程を明らかにするために，様々な動物種を対象に道具使用課題が実施されてきた。本研究では，複数の動物種を対象に同一の道具使用課題を実施して，種比較を行うことで，体系的な系統発生研究を進め，心的表象操作の進化過程を解明する。				
研究業績	【論文（査読あり）】 1. 永野茜　齧歯類における物理的因果理解：ラットの道具使用行動　動物心理学研究，pp.1-10，印刷中 2. Nagano, A. & Aoyama, K. Tool manipulation by rats (*Rattus norvegicus*) according to the position of food. *Scientific Reports*, 7巻1号, article number 5960, pp. 1-11, 2017年 3. Nagano, A. & Aoyama, K. Tool-use by rats (*Rattus norvegicus*): tool-choice based on tool features. *Animal Cognition*, 20巻2号, pp. 199-213, 2017年 4. 永野茜・奥村紗音美・青山謙二郎・上北朋子　遅延のある選択におけるラットの眼窩前頭皮質の役割　心理学研究，86巻6号，pp. 603-609，2016年 5. 永野茜・青山謙二郎　強制選択試行の割合がラットの遅延の伴う報酬選択に与える効果　行動科学，54巻1号，pp. 31-40，2015年 【口頭発表】 1. 永野茜　齧歯類における物理的因果理解（行動2017　日本動物行動関連学会・研究会　合同大会　動物行動学会・日本動物心理学会　コラボシンポジウム，東京大学，2017年8月） 2. 永野茜・青山謙二郎　Tool choice behavior in rats.（日本動物心理学会第75回大会，日本女子大学，2015年9月） 3. 永野茜・青山謙二郎　強制選択試行の割合がラットの遅延の伴う報酬選択に与える効果（第31回日本行動科学学会ウィンターカンファレンス シンポジウム，広島県，2015年3月） 【その他】 1. *Animal Cognition*に掲載された論文（論文3）は，ロイター通信やVoice of Americaを始め，様々なメディアで取り上げられた（2016年11月）。 2. The 45th annual meeting of the Society for Neuroscienceでの発表が“Hot Topic”に選ばれ，プレスリリースを執筆した。その内容が，学会が発行する“*Hot Topics* book”に掲載された（2015年10月）。				
所属学会	日本心理学会，日本動物心理学会，関西心理学会，Society for Neuroscience				

同志社大学「次世代研究者」プロファイル

キャリア関連	
志望進路	教員（大学・高専等），研究員（研究機関，企業）
進路	
自己PR	博士課程在学中は，ラットを対象に道具使用課題を実施することで，げっ歯類の物理的因果理解について検証しました。現在は，動物の物理的因果理解を検証することを通して，ヒトの心的表象操作能力の進化過程を解明することを目的として研究を行っています。また，2018年度より，心理学部科目「心理学実験(1)・(2)」を担当しております。
取得資格等	

※メールアドレスの（a）は＠を表しています